

旧堀切小学校の津波避難訓練で持久走を経験した小学生たちは、どんな気持ちで訓練に臨み、どんなことを学んだのだろう。それを見守った保護者の方たちの思いや、防災の意識が地域にどう根付いたのかを取材した。

津波避難訓練で学んだこと

訓練で実感した継続は力 子ども同士で励まし合い

旧堀切小学校の津波避難訓練の当時の小学3年生で、今は高校2年の渡会伯玖さんと渡会敦也さんに話を聞いた。

まず、当時の避難訓練の様子を聞いた。毎週3回、5分間の持久走を全校で行ったそうだ。ほかに夏休みなどの宿題としてグラウンド50周という課題もあったという。伯玖さんと敦也さんは「大変だったが、自分のいのちを守るためだ」と思い、がんばったと言っていた。自分の命のため、「一生懸命取り組む姿勢がすごいと思った。初めは、目標の15分に対し、20分以上かかったという。でも、訓練をやるにつれてタイムは縮まり、最後は10分を切ったという。「継続は力」という言葉を実感し、津波が起きても生き伸びることができると自信がついたという。



子ども同士の協力もあったという。上級生に追い抜かれるときに、「がんばって」「もう少し」と励ましの声を掛けられたという。私も、励まされたらがんばるので、きつと子ども同士で励まし合おうと思った。次は、避難場所に行く訓練について、当時、PTA会長だった島津修さんにも話を聞いた。旧堀切小学校の避難訓練では、一刻も早く避難するために整列もせずに走ったという。その活動に対して、島津さんは矛



当時の堀切小学校PTA会長、島津修さん

盾を感じることもあったと思う。「命を守る避難訓練は大切だが、一般の道路を走るのに交通面での心配があった」と、保護者としての気持ちを話していた。

堀切小学校など3校が統合して2015年に新しくできた伊良湖岬小学校に通っていた中学1年の渡会桃音さんにも話を聞いた。旧堀切小学校の訓練の経験は無いが防災

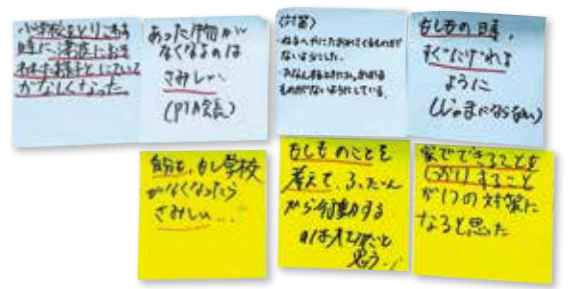
この取材を通して、もの時のために、今できることを考えて、今やれることはしっかりとやるのが大切だとわかった。



川上 陽記者



旧堀切小学校の避難訓練の体験談を聞いた



渡会 桃音さん



渡会 敦也さん



渡会 伯玖さん



当時の「道標プロジェクト」担当者 田原市企画課 中神主任